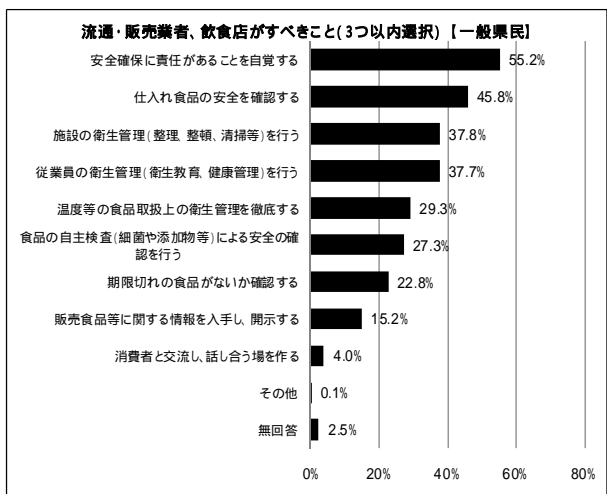
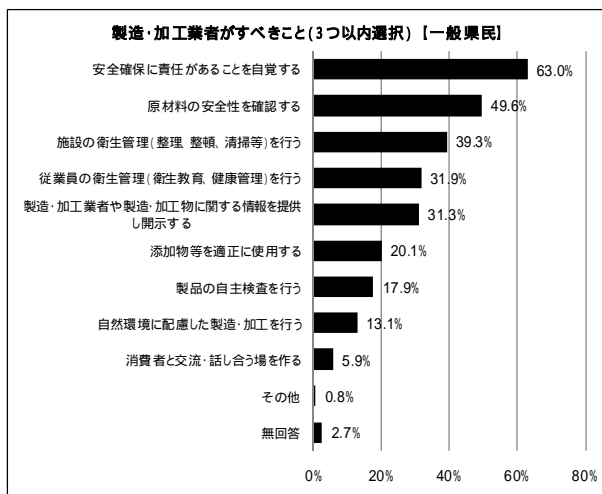
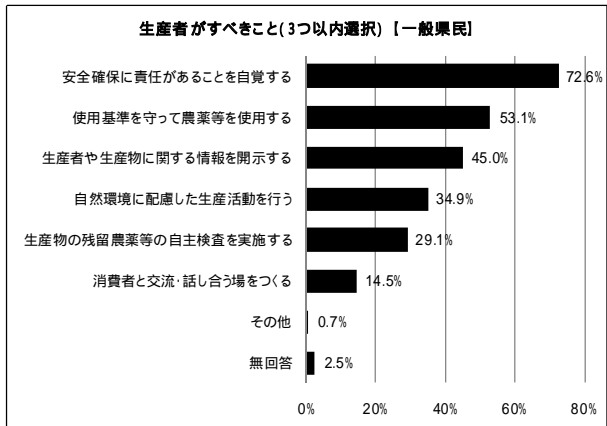


## 事業者に望むこと（一般県民）

### 事業者の責務の遂行を求める傾向が強い

“生産者”、“製造・加工業者”、“流通・販売業者、飲食店”の3者に共通して、「安全確保に責任があることを自覚する」ことを求める意見が最も多い。特に、“生産者”は“製造・加工業者”、“流通・販売業者”よりも多く、7割を超えている。

一般県民は、「消費者と交流し、話し合う場を作る」ことを望む割合が最も低く、交流による理解促進よりも“生産”、“製造・加工”、“流通・販売”の各段階における各事業者の責務の遂行を求める傾向が強いことがうかがえる。

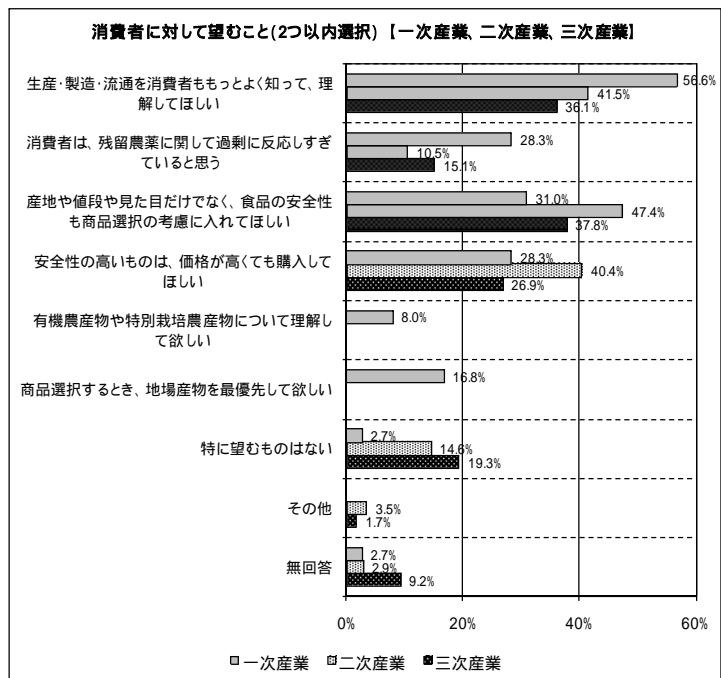


## 消費者に望むこと（一次産業、二次産業、三次産業）

### 消費者の理解を求める傾向が強い

事業者が消費者に望むことは、「生産・製造・流通を消費者ももっとよく知って、理解してほしい」、「産地や値段や見た目だけでなく、食品の安全性も商品選択の考慮に入れてほしい」、「安全性の高いものは、価格が高くても購入してほしい」の3つの項目が、全ての調査区分において多くなっている。

一次産業では、農薬の使用等を含めた生産活動についての理解を、二次産業では、安全性の確保のためのコストについての理解を、消費者へ求めている姿がうかがわれる。



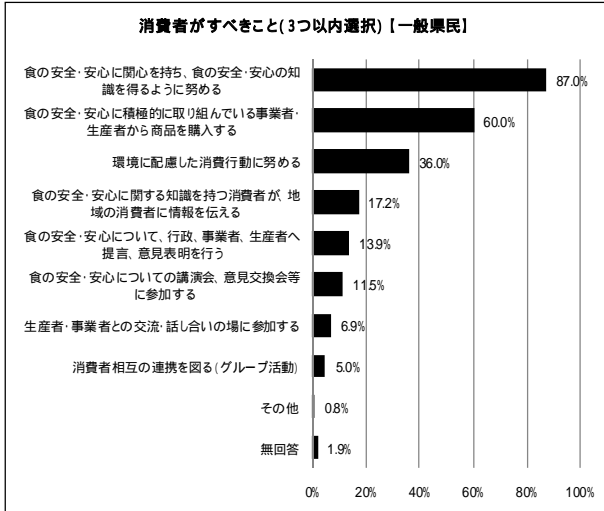
消費者がすべきこと（一般県民）

「食の安全・安心の知識を得よう」

との意識が高い

「食の安全・安心に関心を持ち、食の安全・安心の知識を得るように努める」が最も多くなっている。一方で、事業者が望んでいる「もっとよく知って理解して欲しい」（前表）の意識に対し、「生産者等との交流・話し合い」の選択は低く、意識の違いが見られる。

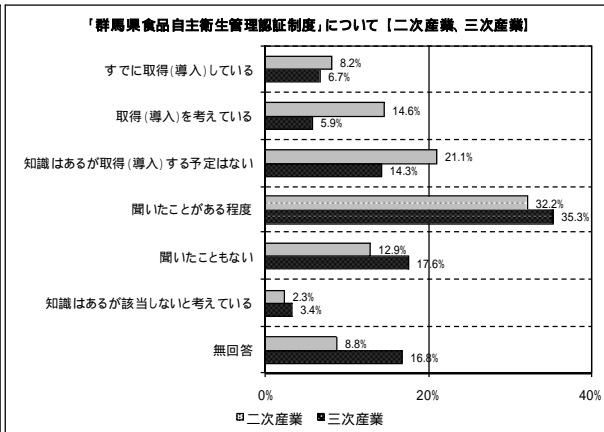
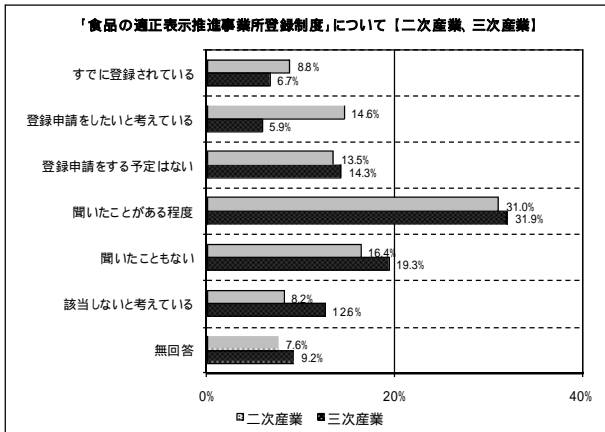
また、「生産者との交流・話し合い」や「意見交換会への参加」などの、知識を得るための積極的なアプローチに関する項目は低くなっている。



「食品の適正表示推進事業所」・「群馬県食品自主衛生管理認証制度」・「GAP(農業生産工程管理)」  
制度の十分な認知が「かぎ」

「食品の適正表示推進事業所登録制度」・「群馬県食品自主衛生管理認証制度」(二次産業、三次産業)

「食品適正表示推進事業所登録」及び「群馬県食品自主衛生管理認証制度」については、二次産業、三次産業ともに「聞いたことがある程度」が最も多くなっている。二次産業は「すでに登録されている」、「登録申請をしたいと考えている」の割合が三次産業と比較すると高く、積極的な傾向がうかがえる。



「GAP(農業生産工程管理)」(一次産業)

「GAP(農業生産工程管理)」については、「聞いたことがある程度」が最も多くなっている。

「すでに取得(導入)している」と「取得(導入)を考えている」の割合は、「HACCAP(危害分析重要管理点)」（8.0%）や「ISO22000」（0.0%）など、他の認証規格よりも比較的高く（18.6%）GAPは農業者を対象とした管理手法であることから、一次産業において取得傾向が高くなっていると考えられる。

